

2023年度成人科テキスト

「聖書日課と分かち合い」1月号



名前

お知らせ

◇ 毎週、成人科を行っています。ぜひご出席ください。

10:15～10:50 地下フェロシップホールにて

◇ 受付で出席表に記入し、グループ分けの番号札を引いてから着席ください。

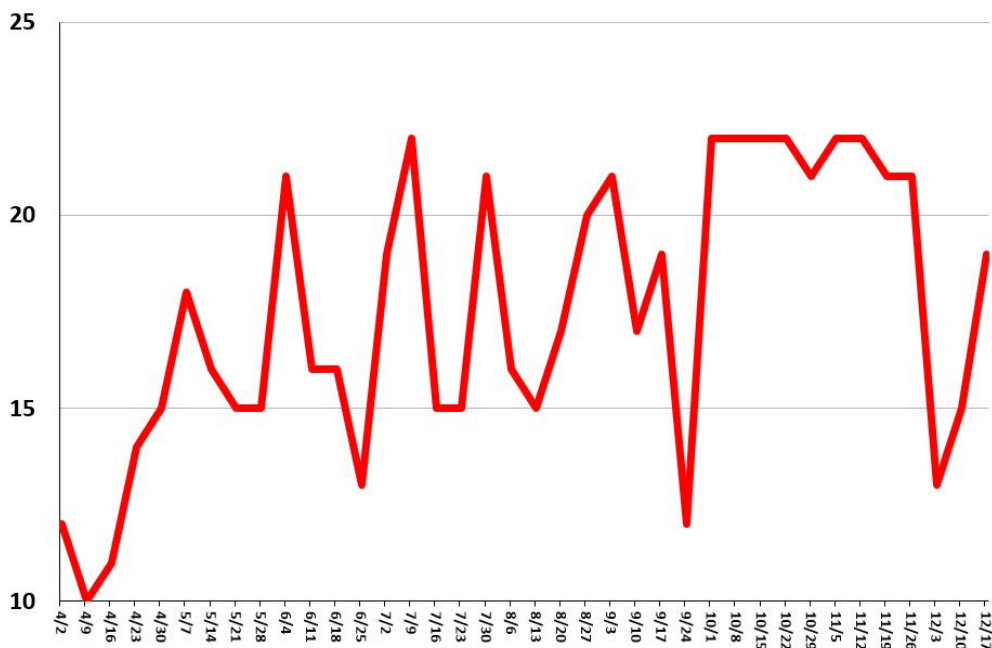
◇ 後から来られる方のために、前列への着席にご協力をお願い致します。

◇ 「聖書教育」誌の購読をお勧めしています。このテキストと併せて、ぜひお読みください。ご希望の方は事務室までお知らせください。

◇ このテキストのボックスへの配布をご希望される方は、担当者（岩崎秀子姉、宇佐美典子姉、郷健人兄）までお知らせください。

◇ ショートメッセージ動画は教会ホームページ上でも視聴できます。10:15のスタートには間に合わない・・・という方や、お休みされた方、もう一度聞きたいと思われる方など、ぜひご活用ください。

学びの輪を広げましょう！



礼拝と学びがバプテスト教会の二本柱。

テキストをお読みくださっている皆様も、ぜひ毎週日曜10:15～の成人科にご出席ください！

今月の執筆者

(左: ショートメッセージ 右: 聖書日課)

41課: 田中由記子姉 工藤征治姉

42課: 郷 健人兄 栗山義亜兄

43課: 岩崎秀子姉 渡部和子姉

44課: 郷 秀男兄 小澤敬一兄

解説・ヨハネによる福音書①

今月号から、その月に読まれる書の解説ページを設けることとなりました。各週の聖書日課・ショートメッセージを読む際の参考としていただければ幸いです。

【本書の目的】

使徒ヨハネがこの書を記した目的は、この福音書に与った者が、イエスを神の子・キリストと信じて、永遠の命を得るために主イエス・キリストだけが持つておられる栄光の御姿をユダヤの世界を知らない異邦人(特にヘレニズム文化に育った人)にも理解できるように描き出すことでした。

これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。(ヨハネ20:31)

～イエスを神の子と述べた人たち～

バプテスマのヨハネ(1:34) ナタナエル(1:49) ペトロ(6:69) マルタ(11:27)
トマス(20:28) 使徒ヨハネ(20:31) イエスご自身(10:36)

【ヨハネ福音書の性質】

- ・ マタイ・マルコ・ルカの共観福音書とともにヨハネ福音書もまた、イエス・キリストの伝記や歴史書ではなくイエスによる救いの「良き知らせの証し」をする書です。
- ・ ヨハネ福音書は使徒ヨハネの最晩年の頃、エフェソで弟子たちからの問いかけに応じるようにイエスが語られた言葉を思い起こし、70年近くの永い間をかけて当時は理解できなかったことも含めて聖霊の導きを得て深く黙想しイエスの言葉として表したものと考えられています。それによりヨハネ福音書は「聖霊の福音書」とも言われています。
- ・ ヨハネはイエスの愛弟子として、常にペトロとともにお傍にいて行動を共にしていました。伝え聞いたものではなく実際に目撃した者にしか分からない詳細な記述も多くあります。

イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。(ヨハネ19:33-35)

カナの婚礼の水瓶の数、茨の冠をつけられた、イエスの公生涯が約3年であること 等々・・・

【時代の背景】

福音書の書かれた時代は紀元100年頃と推定されています。キリスト教は当初はユダヤ教の一分派と世間からは見られていました。イエスの昇天後まもなく弟子たちの間にかねてイエスが言っていたように、彼が復活したという信仰が生まれました。これを信じるものは集まって悔い改めと感謝をもって神を信じ、イエスの再臨と神の国の真の到来を待つ信仰共同体をガリラヤやエルサレムに形成して原始キリスト教が生まれました。

使徒パウロは異邦人伝道の使命を帯びて三回の伝道旅行で福音を広め、小アジア(トルコ)、ギリシャ、マケドニア、ローマまで広がりました。紀元100年頃にはヘレニズム文化圏の異邦人キリスト者がユダヤ教から改宗したキリスト者より圧倒的に多くなっていきます。

一方でエルサレムではユダヤ人が紀元66年にローマに反乱を起こし抵抗しましたが敗れてエルサレムの神殿は紀元70年に破壊されてしまいました。ローマ帝国では皇帝ネロの時代、紀元64年にローマの大火があり、キリスト教徒を放火犯としたネロによって大迫害が起きました。この事件を契機にキリスト教はユダヤ教の分派とは見なされなくなりました。パウロはこの事件前後の年に殉教しています。

【思想の背景】

・ ロゴス

ギリシャ人はロゴスの概念を持っていました。ロゴスとは「言葉」と「理性」の二つのものを意味します。人間の中に内在する神のロゴス、又は神の精神が人間を思考する理性的存在とならしめっていると彼らは考えていました。使徒ヨハネは「神の精神は、人間イエスにおいて地上に来了。イエスを見たならば神の精神と思想がどのようなものかわかる」という彼らの思考できる方向でイエスを証したのです。

・ バプテスマのヨハネ

当時の人々に旧約の預言者に続く預言者的な存在として彼は広く受け入れられていました。ヨハネ福音書ではバプテスマのヨハネがどのような人物であるかを示し、イエスとの関わりを明確にすることでイエスの神性を伝えています。

・ 異端のグノーシス主義

基本的な教理は物質は本質的に「悪」である、精神は本質的に「善」である、という視点に立っています。また、グノーシス主義者は神は世界の創造に関与していないと信じていました。グノーシス的信仰はイエスの真の神性と、真の人間性を否定するものに対して、ヨハネ福音書はイエスの人間性を強調し、同時にイエスの神性と神格性を提示しています。

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。（ヨハネ16：12-13）

【 参考図書 】

ヨハネ福音書 上 (聖書注解シリーズ5)

ウィリアム・バークレー著 ヨルダン社 1982年

聖書理解のためのガイドブック

ジョン・R・W・ストット著 聖書同盟 2010年

早わかり聖書ガイドブック

フランシス・フランケンベーカー著 いのちのことば社2010年

バイブルワールド

ニック・ペイジ著 いのちのことば社

第41課 「もっと偉大なことを 見ることになる」

聖書箇所：ヨハネによる福音書1章43-51節

主題聖句：イエスは答えて言われた。「イチジクの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」
(ヨハネによる福音書1章50節)

2024年になりました。

2023年は皆さまにとって、どのような一年だったでしょうか。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、少しずつ以前の活動が戻ってきました。また、様々な記録を塗り変える暑い暑い夏でした。そして、何よりも、平和について考え、平和を祈り求めた一年だったのではないのでしょうか？

新しい一年も皆さまの上に主の豊かな祝福がありますように。共に聖書を読み、み言葉を学び、分かち合うことのできる幸いに感謝し、歩んでまいりましょう。

今年もよろしくお願いいたします。

1月から3月まで3か月をかけて、ヨハネによる福音書を読んでまいります。

本日の聖書箇所は1章43～51節ですが、その前の35～42節で、アンデレとシモンがイエスさまと出会います。そして、本日の箇所では、フィリポとナタナエルがイエスさまに従います。

フィリポは、イエスさまに「わたしに従いなさい」と言われてすぐに従います。イエスさまが「モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方」とであるとわかったからです。

しかし、ナタナエルは、「ナザレの人で、ヨセフの子イエスだ」と聞くと、ナザレのような、エルサレムから遠く離れた小さな田舎町から、救い主が出るはずはないと一笑に付してしまいます。そこで、自分の話だけでは信じられないのなら、直接会ってみるようにと、フィリポはナタナエルをイエスさまのところに連れていきます。

イエスさまは、ナタナエルのことを、「まことのイスラエル人だ」「偽りが無い」「イチジクの木の下にいるのを見た」と言われます。その言葉を聞いて、ナタナエルは驚き、イエスさまを「神の子」「イスラエルの王」とほめたたえます。イエスさまが見てもいないのに、ナタナエルのいた場所を言い当てたので、ナタナエルは信じたのでしょうか？私は、場所を言い当てたというよりも、ナタナエルが、常日頃、イチジクの木の下で聖書を読み、平安を祈り、救い主が来られることを心から願っていたことをご存じだったからなのではないかと思います。

イエスさまは、ナタナエルに対して、「イチジクの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。」と言われます。ナザレの村から救い主が出るなんて…と全く信じようとしなかったことを考えると、イエスさまを信じるようになったことはナタナエルにとって大きな一歩でしょう。しかし、イエスさまは、「もっと偉大なことをあなたは見るようになる。」とおっしゃいます。「もっと偉大なこと」とは何でしょうか。「天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りすること」だとイエスさまは言われます。

主の存在を信じるようになったとしても、天におられる主が遠い存在で、自分との間に大きな隔たりがあるとしたら、私たちは真の平安を感じる事ができるでしょうか？イエスさまが人間として生まれてきてくださり、私たちのために十字架にかかり、復活してくださったので、私たちはいつでも神さまとつながっているという平安の中にいる事ができるのです。つまり、ヤコブの夢に出てきた階段は後にお生まれになる救い主イエス・キリストで、天の父なる神と、地上の私たちをつないでくださるのだと思います。「天が開け」の元の言葉には、「開きっぱなし」という意味があるそうです。天はいつも私たちに向かって開かれているのです。そして、「昇り降りする」という言葉には、神さまと私たちの間の矢印は決して一方通行ではなく、祈りをもって主に語りかけること、主の愛に応えていくことがゆるされていると感じます。なんという恵みでしょう。

皆さまは、どのようにしてイエスさまを信じるようになりましたか？イエスさまのお話を聞いて、すぐに信じましたか？先入観や思い込みのためにすぐには信じられませんでしたか？

初めは信じられなかったけれども、友人や家族が熱心に誘うので、教会に通うようになり、信じるようになる方。何か劇的な出来事を通して「主は確かにおられる」と実感し、信じるようになる方。その経緯は様々だと思いますが、一人でも多くの方が主を信じ、救われることを願って、フィリポのようにイエスさまを証しし、伝道する者として歩みたいと思います。

そして、一人でも多くの方が、主の存在を信じるだけでなく、天と地がイエスさまによって繋がれ、主がいつも隣にいてくださることを知る事ができますようにと願います。

～分かち合い～

- どのようにイエスさまと出会い、どのように信じるようになりましたか？
- 天の神さまと自分をつなぐイエスさまの存在を感じる時はどのような時ですか？

1月7日（日）ヨハネによる福音書1章43-51節

43その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。44フィリポは、アンデレとペトロの町、ベトサイダの出身であった。45フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」46するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。47イエスは、ナタナエルが御自分の方へ来るのを見て、彼のことをこう言われた。「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りがない。」48ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。49ナタナエルは答えた。「ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」50イエスは答えて言われた。「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」51更に言われた。「はっきり言うておく。天が開け、神の天使たちが人の子の上に昇り降りするのを、あなたがたは見ることになる。」

過去/現在/未来の我々に、目に見えない神の愛を十字架で証明されたイエスさまに心から感謝します。

1月8日（月）ヨハネによる福音書12章27-32節

27「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。28父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」29そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。30イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。31今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。32わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」

聖書から「知識」を得るだけでなく、神からの働き掛けである霊を感得する事が重要です。

1月9日（火）ヨハネによる福音書9章1-12節

1さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。2弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」3イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。4わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。5わたしは、世にいる間、世の光である。」6こう言ってから、イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。7そして、「シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。8近所の人々や、彼が物乞いをしていたのを前に見ていた人々が、「これは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。9「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「わたしがそうなのです」と言った。10そこで人々が、「では、お前の目はどのようにして開いたのか」と言うと、11彼は答えた。「イエスという方が、土をこねてわたしの目に塗り、『シロアムに行って洗いなさい』と言われました。そこで、行って洗ったら、見えるようになったのです。」12人々が「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と言った。

目に見えることは信じ易いけど、本質を見失うこともあります。目に見えないものを信じる信仰が重要です。

1月10日（水）使徒言行録1章9-11節

9こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。10イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、11言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

欧州の美術館には多くの天使の絵画があります。とても可愛い子供の天使達が神の使いの役割を果たしています。

1月11日（木）マルコによる福音書1章14-20節

14ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへき、神の福音を宣べ伝えて、15「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。16イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。17イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。18二人はすぐに網を捨てて従った。19また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、20すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。

私はバプテスマを受けてクリスチャンになった時、価値観の転換をしましたが、実際の行動の転換には長い時間が掛かると感じています。皆さんは、いかがでしょうか。

1月12日（金）ルカによる福音書17章5-10節

5使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、6主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

7あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。8むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。9命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。10あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」

「からし種一粒の信仰があれば」とあります。私はクリスチャンとして発芽したけれど、果たして大きな「からし」の木に成長する迄に、これからどれ位の時間を要するでしょうか。

1月13日（土）ルカによる福音書11章9-10節

9そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。10だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。

「探しなさい、そうすれば見出す」とは、イエスさまを信じ、聖書を学べば、神の祝福があるものと確信します。

第42課 「救い主到来のしるし」

聖書箇所：ヨハネによる福音書2章1－11節

主題聖句：イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、
その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

(ヨハネによる福音書2章11節)

ヨハネによる福音書には7つの「しるし」が記されており、本日の箇所がその1つ目にあたります。今後の聖書教育誌では43課で「5つのパンと2匹の魚」、47課で「ラザロの復活」を取り上げます。この他に、弟子たちの前で湖を歩かれた出来事と、病からの癒しが3つあり、計7つとなります。

これらの出来事は、イエスさまが神の子である、と明確に私たちに教えてくださるものだからこそ、ただ「奇跡」と呼ぶのではなく、「しるし」という言葉が使われているのでしょうか。ヨハネ書全体の目的として「**あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。**」(20:31)と書かれていることにも、それが表れています。

「カナの婚礼」でのしるしは、四福音書の中でもヨハネ書にしか記されていないのも関わらず、非常に有名で多くの方の印象に残っているかと思います。その理由を想像すると、1つには「結婚式でのハプニング」という出来事が、今の私たちにも現実味をもって思い描けるからではないか、と考えました。

当時の結婚式は1週間ほど続くこともある、豪華なものでした。ぶどう酒を飲んだ世話役がわざわざ花婿を賞賛している姿から見ても、ここでの成功や失敗がそのまま夫婦や一族の評価に繋がる大舞台だった、とも考えられます。イエスの母マリアは、ぶどう酒が無いことにすぐ気づいたり、召し使い達に指示を出したりしているので、もてなす側の一員だったのでしょうか。どれほどの焦りと戸惑いを感じたか、想像することは難しくありません。

ただ、それと同時に他の6つのしるしと比べると、ずいぶん身近で、ずいぶん人間臭く、どこかコメディのような一幕だとも思われます。他の箇所では5000人の空腹が満たされたり、湖の上を歩いたり、死んだと思った人や病の床にあった人が癒されたり・・・という壮大な出来事が起きているのです。結婚式での失態をイエスさまに助けてもらえた、という出来事はずいぶん小さく感じます。ただ同時に、それが1つ目のしるしという点が興味深くもあります。本日の週題は「救い主到来のしるし」です。せめて湖を歩くぐらいの方が、この題には合うような気がしないでしょうか？

もしかしたら、私たちはイエスさまを敬うあまり、イエスさまに何かを祈り求める時、「そうするにふさわしい出来事かどうか」の線引きをしているのかもしれない。たとえば、醤油が切れたとか、小銭が足りないとか、これぐらいの日常的な困りごとに「イエスさま助けてください!」と祈るのは、どこか大げさだと思う自分がいます。しかし、そんな小さな出来事、些細な困りごとでもイエスさまに頼っていいんだよ、と今日の箇所から語りかけられたように思います。「7つのしるしの中の1つ、それも初めの1つ」という視点から「カナの婚礼」について考えることで、初めて与えられた気付きです。

助けを求めるマリアに「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです」と答えたイエスさまは、すこし冷たいようにも見えます。但しこれは日本語訳の限界もあるようです。この場合の「婦人」は敬意を込めた言葉であり、また「どんなかわりが・・・」というのも、私は関係ないと突き放しているのではなく、「わたしとあなたでは、この出来事に対して見解が違う」といった意味があるそうです。焦るマリアに対し、神の子であるイエスさまは、恐れも焦りも必要ないと伝えたかったのではないのでしょうか。とんでもないピンチだ！と思う気持ちにも、これはわざわざ頼るほどじゃないかな・・・と思う気持ちにも、イエスさまは「見解が違う」と言って、寄り添ってくださるお方なのです。

イエスさまがぶどう酒に変えた水は、80～120ℓぐらいの大きな水がめに入っていました。これは飲み水ではありません。外から持ち込んだ汚れを洗い落とすための水で、衛生的な意味と、宗教的な意味をどちらも含んでいました。神社のお手水が近いのかもしれませんが、最近見たムスリム文化を扱ったドラマでも礼拝所に入る前は手足を洗っていました。水がめの水も、人々にとってはある種の神聖さを帯びていたかもしれません。

それが、宴客をもてなす美味しいぶどう酒が変わってしまうというのも、イエスさまがどのようなお方であるかを表していると思うのです。イエスさまは、律法でがんじがらめになった人々を解放し、神との間にあった隔てを打ち破ってくださいました。遥か遠くに感じていた神さまが、イエスさまの仲立ちによってぐっと身近になったのです。いま私たちが「神さま・・・」と自由に祈れるのは、イエスさまの執り成しの故です。身を清めるための水が、美味しいお酒に変わるのと同じように、人間と神さまの関係性も変化したのです。

今日の箇所ですら起きた「しるし」は、もちろん11節にある通りイエスさまの権威を表し、人々の心を変える出来事としても作用しました。しかし同時に、イエスさまが私たちの小さな困りごとをも助けてくださるお方であり、また神さまを身近に引き寄せてくださるお方である、ということ象徴する出来事でもあったのです。そういう意味では、正に1つめの「しるし」に相応しい、イエスさま流の自己紹介だったのかもしれません。ぶどう酒がなくなったの、と相談したマリアのように、私たちも日々イエスさまを頼り、助けていただきながら歩んでまいりましょう。

～分かち合い～

- イエスさまに対して祈ることに、ためらいを感じたことはありますか。
- イエスさまが傍にいてくださる、助けてくださると感じた経験を分かち合いましょう。

1月14日（日）ヨハネによる福音書2章1-11節

1三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。2イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。3ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。4イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」5しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。6そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。7イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。8イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。9世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかった。花婿を呼んで、10言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」11イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

この場合、世話役がお酒を新たに買いに行くなり、近隣に分けてもらいに行く場面ではありますが、当てがないと婚礼がお開きになってしまう可能性もあります。イエスさまの対応は、一見冷たく見えなくてもいいですが、イエスさまは招かれた賓客であったと見ると当然の反応に見えます。母マリアの圧力？もあり、ここで初めての奇跡が祝いの席にておこなわれました。共に喜んで下さるために。

1月15日（月）ヨハネの黙示録19章9-10節

9それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。10わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の霊なのだ。」

天使みずから言ってくれていても、私たちは「神さまの使い」というだけで聖なる者としてひれ伏してしまいそうです。拝むべきは神さまお一人。天使も共に仕える同労者です。

1月16日（火）テサロニケの信徒への手紙1章5-18節

15主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。16すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、17それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。18ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい。

主の再臨は聖書に記されているので必ず来ます。だからその時がいつ来てもよいように、それに備えていく生活を励まし合いながら送っていく。テサロニケの信徒たちがこの世での生活をないがしろにしていたからのこの言葉と考えられます。神さまの目に叶う生活をしていきたいですね。

1月17日（水）ペトロの手紙二3章10-13節

10主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音をたてながら消えうせ、自然界の諸要素は熱に熔け尽くし、地とそこで造り出されたものは暴かれてしまいます。11このように、すべてのものは滅び去るのですから、あなたがたは聖なる信心深い生活を送らなければなりません。12神の日の来るのを待ち望み、また、それが来るのを早めるようにすべきです。その日、天は焼け崩れ、自然界の諸要素は燃え尽き、熔け去ることでしょう。13しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。

主の日、神の日（終末の時、裁きの時）、表現が少し怖いですが、私たちの信じる神さまは「愛の神」、そしてイエスさまが共にいて下さる。聖霊の働きが私たちを日々新たにしてくださる。祈り委ねていれば安心ですね。

1月18日（木）テサロニケの信徒への手紙二1章8-10節

8主イエスは、燃え盛る火の中を来られます。そして神を認めない者や、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者に、罰をお与えになります。9彼らは、主の面前から退けられ、その栄光に輝く力から切り離されて、永遠の破滅という刑罰を受けるでしょう。10かの日、主が来られるとき、主は御自分の聖なる者たちの間であがめられ、また、すべて信じる者たちの間でほめたたえられるのです。それは、あなたがたがわたしたちのもたらした証しを信じたからです。

テサロニケの信徒が迫害と苦難の中、忍耐と信仰を示している（テサロニケII 1:4）ことへのパウロの賛辞と励ましの言葉です。テサロニケは遠いマケドニアの町ですが、ユダヤの商人が多く住む土地であり、福音宣教の拠点と同時に、敵対する勢力の拠点でもあったそうです。

1月19日（金）ローマの信徒への手紙13章8-10節

8互いに愛し合うことのほかに、だれに対しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。9「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があつても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。10愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

「人を愛する者は律法を全うしている」は素晴らしい言葉ですね。確かに十戒も神さまへの畏敬の念以外の部分は隣人（相手）を思う気持ちがあれば行わずに済むものばかりです。

1月20日（土）使徒言行録2章43-47節

43すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業とするしが行われていたのである。44信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、45財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。46そして、毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、47神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

聖霊降臨（ペンテコステ）後の使徒達の生活を記した箇所です。教会（信徒）の理想形と言えます。常盤台教会も少しでも近づけるようにしていきたいですね。

第43課 「心満たされる礼拝へ」

聖書箇所：ヨハネによる福音書4章1－26節（参照27-42節）

主題聖句：この水を飲む者はだれでも渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。（ヨハネによる福音書4章13－14節）

「サマリアの女」という言葉を聞いた時、皆さんはどんなイメージを持たれますか？

「善きサマリア人のたとえ」を思い浮かべられる方もいらっしゃるかもしれません。

今回の聖書箇所はヨハネによる福音書の4章です。「善きサマリア人」はルカによる福音書ですね！

サマリアはもともと北イスラエル王国の首都でその周辺の名前でもあります。そして南ユダ王国とは敵対関係にありました。この当時ユダヤ教の一派である「サマリア教団」が生まれたとも言われています。サマリアの人々は、イスラエル王国の分裂や民族の確執、宗教上の見解の相違から、ほかのユダヤ人とは交流しなくなっていました。

イエスの時代にも一般のユダヤ人たちは、同じイスラエル人でありながらサマリアの人々とは交流はせず軽蔑していた背景があります。しかも当時は女性の地位は低かったと見る事ができます。

今回の4章では、他の福音書には書かれていない、イエスご自身が伝道された記事として記されています。イエスの伝道によって、最後にはサマリア人たちが信仰告白に至っています。42節は、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」と、サマリアの人々が女に言った信仰告白の言葉で終わっています。

1節から3節は、敵対するファリサイ派の領域であるエルサレムから離れ、イエスにとっては安全な地域であったとされるガリラヤへと向かいます。

イエスの活動が洗礼者ヨハネよりも大きくなったとの噂がファリサイ派の耳に入り、そのことを知ったイエスが取った行動は、まだこの時はファリサイ派と対峙する時ではなかったからだと推測されます。

4節でのサマリアを通らなければならなかった理由とは、「通らねばならなかった」という言い方で神の摂理、イエスの使命が暗示されていると思われます。

そしてこの箇所は聖書において、イエスのサマリアでの伝道が唯一記されている重要な箇所でもあります。この4節は38節で記されている「あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実にあずかっている。」へと続きます。簡単に触れさせていただきますが、

サマリア伝道は「あなたがた」と記されたサマリア伝道に派遣された者が担っており、この福音書が書かれた時代においては「ヨハネの教会」が任されていた地域であるという見解です。

しかし、イエスの取った行動は、神の言葉によって生かされていくという伝道の姿勢を、自ら示した重要な意味を持つ箇所であると言われています。

5節6節の「ヤコブの井戸」は、ヨセフの末裔が北イスラエルとなるので「ヤコブの井戸」はサマリアの人々にとっての象徴的な生命線という意味を持っています。

極々簡単に系図を紹介させていただきますと、ヤコブ（後のイスラエル）には12人の息子がおり、その中の一人ユダから後の南ユダ王国、そしてその中の一人ヨセフから後の北イスラエル王国が誕生します。

それほどに、「ヤコブの井戸」が象徴とされていたことは納得のいくことと思われます。そしてこの女は、「わたしには夫はいません。」と正直に告げたことにより、イエスによって「あなたには5人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたはありのままを言ったわけだ。」と言われます。これは、女の置かれている立場と心の渇きを知ってくださっていたからに他ならない言葉と思われます。サマリア人の共同体の中で、避けて生活をしなければならぬ立場であったために、誰も水を汲みに来ることのない時間（亜熱帯性気候ゆえに昼寝の時間）である正午にこの井戸に来たと推測できるでしょう。

10節の「神の賜物」という表現で、サマリア人とは交流しないユダヤ人であるイエスが、「水を飲ませてください。」と女に言い、つまりは「命に至る水」をイエスが女に与え、「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」と女自らが望む展開となり、「ヤコブの井戸」を通して神の恵みが注がれます。そして、イエスが与えようとしている水は目に見える具体的な水ではなく、聖霊が与える救いであり、イエスの使命により、このように成されたと言えるでしょう。

「ヤコブの井戸」から汲んだ水は飲んでもまた渇くが「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。」という表現で、ヤコブよりもイエスの権威が勝っていることを表し、女の罪からの解放と救いと働きを示唆していると思われます。

そしてこの出来事は、女一人に向けられたものではなく、サマリア人への伝道という「イエスの使命」と思われます。

サマリア人が礼拝していたゲリジム山の神殿、ユダヤ人が礼拝していたシオンの山のエルサレム神殿、この隔たりに対してイエスは、女の拒否とも受け取れる20節の「わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」という言葉に、真実の交わりを確立しようとなさいます。

21節の「父を礼拝する時が来る」というのは、ユダヤ教やサマリア派という伝統的宗教を乗り越えて、両者が共に一つなる神、真なる神を礼拝することを宣言していると考えられています。そしてこの宣言は、イエスの十字架と復活を意味し、イエス・キリストの身体なる神殿での礼拝こそが「心満たされる礼拝」であると語っています。

この「心満たされる礼拝」は、すべての人々、異邦人である私たちにも等しく与えられている祝福です。

26節の「イエスは言われた。それは、あなたと話をしているこのわたしである。」という信仰告白で、終末を示唆していますが、未来的な事柄として語られます。

しかし、現代に生きる私たちにはこれほどにない喜びであり救いであることがわかります。今回の聖書箇所は、多くの皆さまがご存じかと思いますが、これほどまでに主は私たちを愛してくださっていることを、改めて感謝する時としたいと思います。

～分かち合い～

- 礼拝をお捧げする時、大切にしていることは何ですか。

1月21日(日) ヨハネによる福音書4章1-26節

1さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、2——洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである——3ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。4しかし、サマリアを通らねばならなかった。5それで、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。6そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

7サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。8弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。9すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。10イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」11女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。12あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」13イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。14しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」15女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

16イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、17女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。「『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。18あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」19女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。20わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」21イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。22あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。23しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。24神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」25女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」26イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

私(イエスさま)の与える水を飲む者は決して渇かない・・・立場の違いも考え方の違いも超え、霊と真理を持って共に礼拝を捧げる時が来ます。実際に町の多くのサマリア人も、イエスさまの言葉を自分で聞いて救い主であると信じました。私たちは今聖書を通して霊と真理を知り、神さまを礼拝出来ます幸いを感謝いたします。

1月22日（月）ルカによる福音書16章19-24節

19「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。20この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、21その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。22やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。23そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。24そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』

10代の頃に初めてここを読んだ時には、勧善懲悪のように一瞬スッキリしましたが、時を経て読み返しておりますと、かなり違って罪の大きさとして感じるようになりました。全くお金持ちではありませんが(自分がラザロでは?)と悔い改めの大切さや、生かされている今この時が命のみことばを伝える大切な時であることが迫って来ます。

1月23日（火）マタイによる福音書7章28節

イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。

24～27節で、イエスさまは〈わたしの言葉を聞いて行う人は岩の上に家を建てた賢い人に似ている。イエスさまの言葉を聞いて行わない人は砂の上に家を建てた愚かな人です。〉と、その後どうなったかも含めて、例えを用いて誰にでも分かるように語られました。人々(私たちも)は建前だけを四角四面に主張する見せかけだけの律法学者と全く違うことに驚きます。

1月24日（水）マルコによる福音書10章17-27節

17イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」18イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。19『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」20すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。21イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」22その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。23イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」24弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。25金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」26弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。27イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」

「子たちよ、・・・金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」の言葉に、「それでは誰が救われるのだろうか」希望が無いではないかと互いに言うのは当然だと思いました。これらの人々に(私たちにも)「人間にはできないが、神にはできる。」と最後に、不可能を可能にできる神さまの確かな力強いみ言葉で、大きな慈しみを示して下さいました。

1月25日（木）マタイによる福音書14章22-33節

22それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。23群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。24ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。25夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。26弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。27イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」28すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」29イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。30しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。31イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。32そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。33舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

強い風に気づいて怖くなり、沈みかけたので「主よ、助けて下さい」と叫んだ。私達も迷い無くイエスさまだけを見あげて歩んでいる時は、不安から解放されていますが、ふとよそ見をして厳しい現実を注視した時に、怖くなる時があります。不信仰に思えるその時でさえ、イエスさまは手を伸ばして捕まえていて下さる。何と言う憐れみ慈しみでしょう。

1月26日（金）マルコによる福音書9章38-43節

38ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました。」39イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。40わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。41はっきり言うておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」42「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。43もし片方の手があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。

イエスさまに敵対しない者は味方であると言われるイエスさまの広いご愛に感謝いたします。ただイエスさまを信じる、主の前に小さなこれらの一人でも躓かせるなら、その部分を切り取るようにとまで強く非難されます。私たちの言動が主に喜ばれるものになりますように、悔い改めつつ主ご自身が助けお導きくださいますようにと祈り願います。

1月27日(土) ヨハネによる福音書16章12-15節

12言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。13しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。14その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。15父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

イエスさまは生涯を通して真理を現して下さいました。真理の霊によって、イエスさまを信じる私たちに光の道を歩むようにとお導き下さいました。光の道は私たちのうちに命と力をお与え下さいます。イエスさまのこれら全てのお働きが、(小さな私たちの主に従う歩みを含めて)神さまのご栄光となることを感謝いたします。



第44課 「パンのしるし」

聖書箇所：ヨハネによる福音書6章1－15節

主題聖句：ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。

けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。

(ヨハネによる福音書6章9節)

今週の聖書教育誌の週題は「パンのしるし」です。この五千人の給食の奇跡の出来事は当時のユダヤ社会のなかに驚きをもって瞬く間に語り告げられたことでしょう。それほどに大きなインパクトのある出来事でした。それは四福音書のいずれにも記されていることから分かります。

ガリラヤで宣教を始められたイエスさまの評判は多くの人たちに何かの期待をもって受け入れられました。そんな中、バプテスマのヨハネがヘロデ王によって殺されてしまいます。ヨハネが亡くなったこと、イエスさまにも危害が及ぶ恐れもありガリラヤ湖の北端のカペナウムあたりにいったん退き、祈りの時を弟子たちと持とうとされました。時は過ぎ越しの祭が近づいていました。エルサレムに向かおうとしていた巡礼者の人々もイエスさまが近くにおられると聞きつけて続々とイエスさまのもとに集まった状況が目には浮かびます。ガリラヤ湖を囲むあたりには、ゆるやかな丘状の地形があり多くの人たちが集まっても話しが聞くことが出来たのです。

ヨハネ福音書での五千人の給食で他の共観福音書の記事と違うところは弟子の名前が記されていることです。**フィリポとアンデレ**です。

二人の名前はヘブライ語ではなくギリシア語です。ガリラヤ地方はギリシアの文化圏でもあったので彼らはギリシア語も話せたと考えられています。ギリシア語とアラム語(ヘブライ語)を話す人々とのつなぎ役を任されていたのでしょう。もうひとつの違いは**少年**が大麦のパン五つと魚二匹を持っていたとアンデレがイエスさまに伝えたことです。

さて、皆さんはこの奇跡物語を疑いなく信じることができますでしょうか。「信じます」という信仰に立ちたいと私は示されています。私たちに理性的に理解できる解説もいくつかはありません。晚餐式にあるように分け与えられる僅かなパンでイエスさまの祈りにより霊的に満たされた。あるいは巡礼者の多くはそれぞれに携行する食物を籠に入れて持ってあり互いに分け合い、当時の習慣により貧しい人たちのために全てを食べるのではなく残すので十二の籠がいっぱいであった。など、どれもそうかもしれないと思ってしまう。

「パンのしるし」でイエスさまが伝えようとしたことは何であったのでしょうか。奇跡を目の当たりにした人たちは「イスラエルを救う預言者、王として」期待してエルサレムへ連れて行くことさえしようとしていました。しかし、イエスさまは一人で山に退かれたと聖書は語ります。

少年は自分の持っているパンと魚を差し出しました。アンデレがイエスさまのもとに少年を連れてきました。イエスさまが祝福して祈り、人々に分け与えると十分に満足することが出来たのです。

少年には自分のものでは到底足りないことは分かっていました。こればかりで何の役にたつかとも思いもします。現実主義者のフィリポも同じ思いだったでしょう。しかし、少年は主が求められたと知って差し出しました。否定的なフィリポに対してアンデレもまた「こんな大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」とは言いましたが、彼は少年をイエスさまの元に連れてきて、少年は置いたのです。そして、奇跡の出来事は起こりました。アンデレの果たした役割はとても大きいのです。

少年には自分のものでは到底足りないことは分かっていました。こればかりで何の役にたつかとも思いもします。現実主義者のフィリポも同じ思いだったでしょう。しかし、少年は主が求められたと知って差し出しました。否定的なフィリポに対してアンデレもまた「こんな大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」とは言いましたが、彼は少年をイエスさまの元に連れてきて、少年は置いたのです。そして、奇跡の出来事は起こりました。アンデレの果たした役割はとても大きいのです。

イエスさまは私たちが差し出すことが出来るものを必要としておられます。私たちの献身は他者と比べて小さくて役にも立ちそうもないと思えたものであったとしても問題はありません。アンデレのような助け手、伴走者が必ず立ってくださるのです。そうしたときにイエス・キリストの祝福の御手のなかで恵みに恵みが増し加わり、初めは誰も予想もしない大きな恵みとなることを「**パンのしるし**」の出来事から今日を生きる私たちにも同じことが起こることを示されているのです。

～分かち合い～

- あなたにとって差し出すことが出来るパンが何かを考えてみましょう。

1月28日（日）ヨハネによる福音書6章1-15節

1その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。2大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。3イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。4ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。5イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、6こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。7フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。8弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。9「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」10イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。11さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。12人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。13集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。14そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。15イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

イエスさまの代わりに、あなたが、私がお場にいたら。「神さま、この人たちに食べ物を与えて下さい。お願いします」と心を込めてお願いをささげたら。周りの人々は言う。「いくら祈ったところで、何も変わりはない。イエスさまのような奇跡は起こらない。我々は凡人なのだから」でも、きっと神さまはその祈りに答えて下さり、何らかの手をさしのべてくださるでしょう。

1月29日（月）ヨハネによる福音書10章27-30節

27わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。28わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。29わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。30わたしと父とは一つである。」

「わたしは彼らに永遠の命を与える。だれもわたしの手から彼らを奪うことはできない」イエスさま、あなたに生かされ、日々たくさんの恵みをいただいています。感謝します。あなたの葡萄の木にしっかりと繋がっていますから大丈夫です。

1月30日（火）コリントの信徒への手紙一15章9-10節

9わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。10神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。

「私は使徒の中で1番小さきものです。わたしがあるのは、わたしの働きは共にある神さまの恵みなのです」恵みは愛です。神さまの愛にパウロは多くの働きで答えられました。パウロは本当にすばらしいです。

1月31日（水）ルカによる福音書11章5-13節

5また、弟子たちに言われた。「あなたがたのうちのだれかに友達がいる、真夜中にその人のところに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パンを三つ貸してください。6旅行中の友達がわたしのところに立ち寄ったが、何も出すものがないのです。』7すると、その人は家の中から答えるにちがない。『面倒をかけないでください。もう戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません。』8しかし、言うておく。その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。9そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。10だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたき者には開かれる。11あなたがたの中に、魚を欲しがると子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。12また、卵を欲しがると、さそりを与える父親がいるだろうか。13このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

困った。どうしよう。頭の中で助けてくれる人を探します。求めなさい。探しなさい。門をたたきなさい。あなたの熱意に信頼できる友達は力をかけてくれるでしょう。天の父も祈り求める時、その声に応じて聖霊を与えて下さいます。あなたの愛に感謝致します。

2月1日（木）ヨハネによる福音書6章51-58節

51わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」
52それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。53イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。54わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。55わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。56わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。57生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。58これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

「わたしを食べる人は永遠の命を得る。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、私もいつもその人の内にいる」いつも共にいてくださるイエスさま。感謝致します。

2月2日（金）ルカによる福音書9章21－24節

21イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて、22次のように言われた。

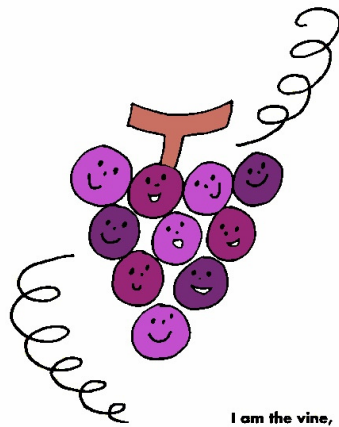
「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」23それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。24自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」自分の心にある私利私欲を捨て、自分の罪深さを知り、イエスさまのみ言葉を心に、日々感謝して過ごしましょう。

2月3日（土）ルカによる福音書15章18－20節

18ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。19もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。」20そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

自作たとえ話です。その人は主を信じ、毎週教会に通い、正しい行いをする人でした。ふとした事から教会に行かない日がありました。次の週も行かなくなりました。教会に行くのがおっくうになりました。神さま、イエスさまを忘れてきました。自分の意思を信じて行動しました。だんだん自分勝手になってきました。自分の思い通りに行かないと人に当たるようになりました。人を思いやる気持ちがなくなってきました。そんな自分がいやになり、酒をあおるようになりました。ますます横暴になり、周りの人はその人を避けるようになりました。自分が墮落して行くのがわかります。「どうしたらいいんだ」その人は泣きながら思いました。「教会に行こう。神さまに許してもらおう」その人は教会の扉を開け中に進み、十字架の前にひれ伏しました。涙が出ました。主は憐れに思い、その人を抱きしめられました。その人は教会に通うようになりました。その後、その人はひとまわり大きくなって、さらに主を信じる人となりました。教会は、主はいつでも扉を開けて、あなたが来られるのを待っています。



I am the vine,
you are the branches
John 15:5

2024.1 成人科